「教育実習を振り返って」

[私立高等学校　英語]

３週間の母校での教育実習を終えて、教科指導、生徒指導、学校運営、学級運営など様々な点で学ぶことが多く、また自分の「学校」「教育」に対しての考えが浅かったことを痛感した。

知識面でいうと、自分の英語力が足りないことを実感した。今まで、私自身、留学経験があるという自負や、教科書を読んだときに問題なく理解できるという点から、もっと英語を勉強する必要性は理解しつつも問題ないと思っていた。しかし、実際教壇に立ち生徒を前に授業をすると、予想外の質問が飛んできたり、うまく説明できず誤魔化したりしてしまう場面があった。教科書の表現と似たものを提示する、似た表現との違いを説明する、教科書の内容を違う表現にするなど、英語の知識や英語での表現力をさらに身に付け、生徒の学びをより深いものにする力が必要だと感じた。

気づきとしては、現役の高校生は英語に苦手意識を感じる生徒が多いものの、英語を使えるようになりたい、留学してみたいという気持ちを持っていることを知った。授業を進めるにあたり、生徒がどのような思いで英語の授業を受けているか把握するためアンケートを実施した。２クラスで実施し、ほとんどの生徒が英語を「嫌い」又は「普通」と答える中、英語に対しての思いを聞くと「留学したい」「将来必要だとは思う」「会話ができる程度にはなりたい」との回答があった。実際に授業をしていく中でも、留学の話や海外の話をすると反応する生徒が多いことを感じた。授業の進め方に関する点では、文部科学省の言うアクティブラーニングや、英語で授業をすることに関して、とても理想的で全国の高校で実施するべきだとは思うが、現状を見る限り今すぐには難しいのではないかとも感じた。

教師としての能力については、もっと磨く必要があると感じた。指示の出し方や、緊急時に自分がどのように動くか、連絡事項をしっかりと伝えられているかなど、明確性が足りないと感じた。授業内や HR で指示、連絡をする時は、明確に、簡潔に伝える力が足りなかった。自分の意志や、生徒の反応への対応力が無いため、言っていることを途中で変えて生徒を惑わせることがあった。また緊急時もどのように動いていいか分からず、生徒を待たせるだけになってしまった。このような指示する力や対応する力を養う必要があると感じた。

教育実習を通して、教師という仕事へのやりがいを感じることができた。実習中は教師としての仕事のほんの一部しか経験していないが、生徒が理解してくれた時の反応や、信頼して相談を持ち掛けてくれた時など素直に嬉しく、もっと生徒の支援をできる教師になりたいと感じた。また授業に関しても日々研究をつづけながら、より良い授業開発をしていくことに面白さも感じることができた３週間だった。